

令和5年度第1回 北九州市上下水道事業検討会 会議要旨

【日 時】 令和5年12月18日(金) 14:00~15:15

【場 所】 小倉北区役所庁舎 東棟8階 812会議室

【構 成 員】 馬道構成員、小畑構成員、菊池構成員、後藤構成員、佐藤構成員、
福地構成員、三上構成員、茂原構成員、吉本構成員 [50音順]

【出席職員】 上下水道局長、総務経営部長、広域・海外事業部長、水道部長、
浄水担当部長、下水道部長、下水道施設担当部長、総務課長、
経営企画課長、営業課長、広域事業課長、海外事業課長、計画課長、
配水管理課長、浄水課長、水質試験所長、下水道計画課長、下水道保全課長、
施設課長、水質管理課長、経営企画課(事務局)

《議題及び報告》

◇議題

- ◆「北九州市上下水道事業中期経営計画 2025 の進捗管理（令和4年度決算・令和5年度予算）」について事務局から説明
- ◆「北九州市上下水道事業中期経営計画 2025 の進捗管理（令和4年度決算・令和5年度予算）」に関する質疑応答・意見

（構成員）

14 ページの豪雨対策について、昨今、雨による災害が大変な状況になっており、近年では毎年どこかで被害が発生しているが、北九州市の豪雨対策については具体的にどのように進めているのかについて伺う。

（事務局）

現在、気候変動の影響として、雨の降り方が集中化・局地化している。

本市においても、平成30年度に1時間70ミリを超える豪雨によって、床上浸水、床下浸水が発生した。

そういった教訓を経て、令和3年度に雨水対策基本方針を見直し、これまで10年間確率53ミリに対応するよう市内一律で整備を進めてきたが、浸水のリスクが高いところ、都市機能が集中しているところをピックアップし、市内で12ブロック16地区を重点整備地区と定め、現在の5年間の中期経営計画期間においては、そのうち9地区について整備を進めている。

（構成員）

事業計画の令和4年度の達成状況・令和5年度の達成見込みについて、ほとんどの項目がa又

はbになっているが、17 ページの上下水道技術の国際協力の研修員受入れの評価をcとしていることについて、その要因を伺う。

(事務局)

新型コロナウイルス感染症の影響でなかなか受け入れができず、当初の予定より減少している。

(構成員)

5 ページの衛星画像とAIを活用した漏水調査について、どのような取組なのか、詳細を伺う。

(事務局)

衛星から電波を発し、地下に2~3メートルほど浸透してはね返ってきたものを精査すると、そこに水があるかないか、それが水道水なのか、その他の水なのかについて、AIが判定するという技術であり、この技術を活用して漏水を発見するというもの。

833箇所、直径200メートルの範囲で漏水の可能性区域を表示しており、そのうち約4割で実際に漏水があったという実績をあげている。

(構成員)

AIを活用する前は、どのように調べていたのか。

(事務局)

AIを活用する前は、水量があまり出ない夜中なのに水量が増えていて、なおかつ通報がないというブロックについて、地下で漏水している可能性があると思込み、音聴棒や漏水探知機を使って人が調べていた。

ただAIを活用した場合も、直径200メートルの範囲で、可能性区域というかたちでしか把握できないため、当該区域については人が調査を行っている。

(構成員)

6・7ページの令和4年度の達成状況について、c評価・d評価のものがああり、目標値に達しなかったのは残念であるが、まずは実態を把握して、公表・説明を行うことが必要だと思う。

そこで、水道で2件、下水道で1件、cもしくはd評価となっているが、内容は物価上昇による事業費の高騰であることから、今後の事業計画において大きな影響が出てくるのか、あるいは繰越等で十分にカバーができるものなのか、見通しについて伺う。

(事務局)

昨今の物価上昇により、十分な事業費が確保できているとはいいがたい状況にある。

必要性等考慮しながら整備を進めているが、繰越等でカバーできるかという点、財源が厳しく元々の予算自体が事業費の高騰に対応できるほど確保できていない状況にあるため、厳しいと考えている。

次の5カ年の計画の中で、事業費はどの程度が適正なのか、財源も含めて検討していく必要があると考えている。

(構成員)

将来の計画に大きな影響を与えるため、今後、しっかりと見直しを進めてもらいたい。

回答の中では、一つは事業費の高騰、もう一つは財源の確保が問題とされていた。

昨今の物価の問題を考えると、コスト削減の取組については一定の限界があると感じている。

そのため、収益・収入の増強策、具体的には水道料金・下水道使用料の適正化についても、今後、検討課題として取り組んで欲しいということを、意見・要望として伝えておく。

(構成員)

14 ページの下から 15 ページにかけて、模擬事故訓練・危機管理研修とあり、毎年、模擬訓練等を行っているようであるが、何か変化をつけたり見直しを行なわないと、マンネリ化してしまうこともあるかと思われる。

北九州市では、模擬事故訓練や危機管理研修において、こういった観点を踏まえて毎年の取組を行っているのかについて伺う。

(事務局)

例えば、今年の上水道局全体の模擬訓練の中では、災害や事故が起こった時の伝達、指揮といったところで、人が思い込みで陥る可能性や、ミスが起こるポイントなどを心理学の先生をお呼びして説明してもらった。

通常、上下水道局の訓練というと、被災対応や浸水対策とかに取り組みがちであるが、今回は各職員がどういう意識の持ち方であるべきかという点にポイントを置いて実施した。

また、局全体以外でも、水道部であれば、配水地等、実地に行つての給水訓練を行ったり、下水道部門では浸水対応の訓練を行うなど、様々な訓練に年度ごと取り組んでいる。

加えて、各自治体が豪雨・地震等で被災することもあるため、自治体間、例えば京都市や名古屋市と合同で訓練することを予定しているほか、日本水道協会や下水道協会といった団体の研修に参加をするなど、幅広く取り組んでいる。

(構成員)

基本的な伝達訓練は非常に重要であるし、毎年変化を加えた訓練も有効だと思われるため、引き続き取り組んでもらいたい。

次に 18 ページの料金の支払方法の拡充について、令和 4 年度は a 評価であるが令和 5 年度は b 評価で、評価が下がっているため停滞感が出てきたように思われる。

支払いの多様化という流れもあるが、一方で、それを利用することにより発生する手数料という観点もあるため、ただ拡充すればよいというものでもなく、利用率なども考慮しなければならないと考えている。

そこで、今回、評価を a から b に変化させた理由や背景について伺う。

(事務局)

令和 4 年度については、スマートフォン決済取扱機関の拡充に取り組み、楽天ペイの 1 社を加えて、合計 8 社が利用可能となったため、a 評価とした。

令和 5 年度予算においては、SUGOCA や WAON などの電子マネーの利用を計画に上げてはいるが、手数料が発生し料金に賦課されることになるため、どこまで導入すべきか検討を行う

必要があるため、b評価としている。

(構成員)

引き続き、検討を行ってほしい。

次に 20 ページの資産の有効活用について、令和 4 年度の収入が約 1 億円であるのに対し、令和 5 年度については 1 億 9,800 万円で約倍増している。

また、令和 3 年度の数字も 1 億 5,700 万円で年度により乱高下しているが、この要因について伺う。

(事務局)

上下水道事業においては、合わせて約 540 万㎡の用地を所有しているが、上下水道事業に直接利用していない普通財産が 14 万㎡ほどある。

そのうち、約 11 万㎡について、駐車場用地とか、様々な形で貸付を行い、皆さんに活用してもらうとともに、上下水道事業の収益化につなげている。

また事業に直接使用している土地についても、問題のないところで要望があれば、一部貸し付けを行い、活用しているところもある。

さらに普通財産については、折を見て用地を買い取ってもらう取り組みも実施しており、こういった収入も含まれた数字になっている。

駐車場用地としての貸付などの収益は安定しているが、タイミングを見据えたうえで土地の売却等を行っているため、年度によりばらつきが生じている。

(構成員)

未利用地の活用は収益の確保として必要な取組だと思うので、引き続き努めてほしい。

(構成員)

ニュース等で、水道管から噴水しているようすが報道されることがあるが、北九州市の配水管については、本来更新が必要な時期が到来しているのに、更新ができていないものがあるのかどうか、あるとすればどのくらいあるのかについて伺う。

(事務局)

配水管の更新については、現在の 5 年間の中期経営計画の中では 185 キロの更新を行うよう計画を立てているが、それにあたりアセットマネジメントを実施し、どれくらい長持ちできるか検証を行った。

法定耐用年数は 40 年であるが、実際の使用年数を 60 年から 90 年に伸ばせるところを勘案しながら、更新の計画を作っている。

従って、今はこの更新計画に基づき、着実に更新を進めていきたいと考えている。

(構成員)

長寿命化など、いろいろと対策を取っていることは理解しているが、将来的には更新が追いつかなくなることも考えられる。

他の自治体でも、全ての水道管を更新するには百何十年要するため到底追いつかない状況に

なっていると聞いたが、同様の懸念はないのか。

(事務局)

本市においても配水管の延長が約 4,200km あり、百年に一度の更新であれば 1%という更新率になるところ、現在の更新率は 0.7%にとどまっており、百年に一度のペースもできていない状況にある。

しかしながら、現在は管路をもっと延命化できないか、調査・研究を行っており、それを踏まえて更新計画を策定するよう考えている。

(構成員)

延命化というのも分かるが、水道管路自体を削減していかなければ、追いつかなくなるのではないかと懸念している。

すぐには難しいと思われるが、例えば 1 軒だけのためとか、他とかなり離れた地域の対策などについては、何十年先という将来まで見据えて、検討する必要があるかと思われる。

(事務局)

水道は面整備の事業であるとともに、お客さまが 1 軒でもあれば供給義務もある。

コンパクトシティというように人口が集中していると非常に管理しやすくなるが、本市のように人口が減少し、まばらになっている状況を踏まえると、ご意見の視点・観点も踏まえながら、今後の計画等検討していきたいと考えている。

(構成員)

4 ページの雨水タンク助成事業について、家庭でも取り組むことができる浸水対策であるため、市民の関心度について注目している。

先日のエコライフステージでも、雨水タンクが展示されており、意外に簡単に設置できるものであると知ることができた。

令和 5 年度の申請は、先着順で 12 月の 15 日に終了となっているが、認定対象の数、一番申し込みが多かった年代、今後事業を知ってもらうための広報について伺う。

(事務局)

雨水タンクについてはご指摘のとおり、家庭でもできる浸水対策ということで、今年度予算から新規に始めた事業となっている。

本年度は暫定予算ということがあったため、7 月から開始し 12 月 15 日を期限として受付を行った。

最初、ホームページに掲載した頃は、リアクションはあまりなかったが、7 月の市政だよりに掲載したところ、多くの問い合わせをいただいた。

申請件数は 40 件弱であるが、問い合わせは 200 件を超えており、非常に注目されてはいるが、受付が 7 月以降であったため、雨の時期を少し逸したものと考えている。

雨水タンクを製造するメーカーによれば、各自治体で同様の制度を設けると、1 年目は少なくとも、2 年目・3 年目から増えていく傾向があると聞いている。

今回は、ホームページだけではなくて、区役所や市民センターで、チラシを配布した。

また、北住協という市内で戸建住宅を建てる組合にもチラシを配布するとともに、3件ほど行った出前公演においても、雨水タンクの実物を持っていったところ、非常に興味がある様子が窺えた。

今年度は初年度で40件弱の申請にとどまったが、来年度も予算を計上したいと考えており、PRも積極的に行っていきたいと考えている。

(構成員)

24ページの水道事業と30ページの下水道事業について、左下の収益的収支のグラフを見ると、かなり厳しい状況にあると見受けられるため、何かしらの対策が必要であると思われるが、すでに何か対策を講じているのか、それとも今後講じていく予定であるのかについて伺う。

(事務局)

現在の中期経営計画で令和3年度から7年度までの5か年の財政計画と、基本計画の中では12年度までの長期収支を作成している。

その中で、水道・下水道については、財源として料金収入・使用料収入が大きなウエイトを占めているが、人口減少や節水機器の普及により、毎年減少している。

令和8年度以降、水道事業については資金が不足する状況が見込まれており、下水道事業については収益的収支がマイナスになると見込んでいる。

そのため、現在の5か年の中期経営計画期間においては、現行の料金体系を維持できると見込んでいるが、料金体系のあり方については検討を進める必要があるとうたっている。

現在の物価や労務単価の上昇といった状況を踏まえると、より厳しい経営環境を迎えていると認識しているため、そういった点も踏まえながら検討していくとともに、市民の負担を伴うものであるため、経費の削減等も合わせて取り組んでいく必要があると考えている。

(構成員)

上下水道の経営が厳しい状況である一方、料金改定は時間を要するものであるため、早めに検討を進めるよう、願います。

(構成員)

雨水タンクについては、これまで水撒きなどで使用していた水道の利用が減少するデメリットがある一方、排水処理・下水処理の負担は少し軽くなるというメリットがあると思われるが、そのようなメリット・デメリットの検討状況について伺う。

また収支については、従前であれば計画に対して実績が上振れしていたため、それほど心配していなかったが、現在は計画通りやそれ以下の状況でかなり厳しくなっており、料金値上げについて検討を進める必要があると感じている。

次の中期経営計画策定の時期にも入ってくるが、料金値上げについて決まらないと計画も策定できないのではないかとと思われる。

人口が減少し、使用される水量も減っていく中、施設を維持管理するためには料金値上げは避けられない。

赤字が膨らんだところで料金値上げをしても、回復させるために時間を要することから、議会にも早めに説明して料金値上げに着手するよう、お願いしておく。

(事務局)

雨水タンクの助成制度開始については、気候変動で雨の降り方が局地化するなど、浸水被害が懸念される中、役所がハード整備をするだけでなく、みんなで対策を考えるという、流域治水という考え方が令和3年度に示されたことが背景にある。

今回の雨水タンクについては、通常はそのまま流れていく雨水について、降雨の時期と排水のタイミングをずらすという浸水対策の一環として始めたものとなっている。

確かに、雨水タンクを利用すると、水撒きなどで使用される水道水が減少することも考えられるが、設置される雨水タンクの容量は100リットル程度であるため、大きな影響はないものと思われる。

それよりも災害を防ぐという市民意識の啓発・高揚につながればよいと考えている。

また、雨水は基本的に雨水管を通して川や海に流れていくものなので、排水処理についても、それほど影響はないものと考えている。

(構成員)

昨年度の事業検討会で、生活保護世帯は下水道使用料が免除されていた点についての見直しについて議題にあがっていたが、その後の状況について伺う。

また下水道資源の肥料利用について、子どもが芋ほりをしている様子がメディアで流れ、早く家庭菜園等でも市民が利用できるとよいと考えているが、利用・普及の方法について伺う。

(事務局)

下水道使用料の減免については、昨年度見直しを行ない、新規の方については昨年10月以降の受付を廃止している。

但し、昨今の物価上昇等の状況を考慮し、昨年9月までに申請をされた方については、令和6年3月までは経過措置を設けており、令和6年4月から請求を開始することとしている。

(事務局)

下水汚泥の件について、高校生にサツマイモを掘ってもらい、NHKでも報道され非常に注目してもらった取組となっている。

下水道資源は、多くの栄養素を含んでいるため、肥料活用については引き続きこういった形で進めていくか検討していく。

農作物に必要な肥料について、ほぼ海外に依存している状況であるため、食料安全保障の観点からも、国内で下水を活用した取組を進めていきたいと考えている。

(構成員)

議題については以上となるが、外生的な要因でコストの増加があったり、人口減や財源の問題があるため、料金の適正化については、引き続き議論していく必要性を感じた。

◇報告

◆「水道水を使用した市制60周年記念酒の製造」・「日本水大賞『グランプリ』受賞」・

「下水道資源の肥料利用に向けた取り組み」・「内水浸水想定区域図の公表」・「雨水タンクの助成制度」について事務局から説明

- ◆「水道水を使用した市制 60 周年記念酒の製造」・「日本水大賞『グランプリ』受賞」・「下水道資源の肥料利用に向けた取り組み」・「内水浸水想定区域図の公表」・「雨水タンクの助成制度」に関する質疑応答・意見

(構成員)

資料 4 の下水道資源の肥料利用に向けた取組について、SDGs の実現化を考えていくという話があったが、今後、下水道事業の収益の一つとしても取り組んでいく計画があるかどうかについて伺う。

また日本水大賞のグランプリ受賞について、最近では社会課題の解決に貢献する仕事に携わりたいと考えている若者が非常に多いと聞いているので、若い方が北九州市の上下水道事業に関心を持つ、よい機会として活かしてもらいたい。

(事務局)

下水污泥の肥料化を収益の一つとして考えているかという質問について、現在のところ、海外の肥料が非常に安いことから、海外からの輸入品の利用が 100%という状態になっているが、我々が食べるものを作る肥料について、ほぼ海外に依存しているのはおかしな状態であるため、今後、国内で下水肥料を使ってもらおうよう、取組を進めたいと思っている。

しかし、肥料を作るための設備の新設に係るイニシャルコストやランニングコストを考慮すると、海外からの輸入品と競い合えるのかが大きな課題となっているため、採算性が合うかも含めて検討していきたいと考えている。

(事務局)

日本水大賞の受賞については、JICA九州の所長に特別講演にご参加いただき、お礼申し上げます。

この水大賞受賞を契機にいろいろなPRを行っており、具体的には今年の 11 月に西日本最大級の環境イベントである、エコライフステージにおいてパネル展示を行った。

また 12 月には、学生と企業の交流を目的とした、ゆめみらいワークにブースを出展し、多くの学生に海外事業の取組を紹介した。

また海外での活動をより知っていただくため、カンボジアやベトナムで国際技術協力に従事している若手職員に密着した動画を制作し、ゆめみらいワークで初公開するとともに、YouTube でも一般公開するなど、積極的なPRを推進している。

(構成員)

随分前に、家庭菜園などに活用するため、堆肥コンポストを普及させたことがあったと記憶しているが、いつの間にか無くなってしまった。

今回の雨水タンクについても、まだ知らない方も多いと思われるし、一時的ではなく長く続けてもらいたいので、PRを頑張ってもらいたい。

また肥料についても、随分前に、上下水道局から売り出したことがあったと記憶している。

本当に安かったが、採算が取れなかったのか、いつの間にか取組が終わっていた。
触ってもさらさらしていたり、臭いもないといった、買いやすく利用しやすい肥料ができるよう期待している。

(事務局)

雨水タンクについて、今年が1年目ということで、多くの問い合わせをいただき興味があることが窺えたが、申請件数はあまり伸びなかった。

引き続き来年度も雨水タンク助成制度を予算にも計上して続けていきたいと考えており、市民センターの掲示など、より一層PR効果を高めていきたいと考えている。

肥料については、確かに、平成7年度に下水汚泥からリンを回収する取組を行ったことがあるが、その時は採算性が合わず、途中で断念した。

今回は岸田首相から、肥料の海外依存の状況を背景に、食料安全保障ということで、できるだけ下水道から肥料化しようという大きな掛け声もかかっている。

まずは、売ることができる肥料に向けて実証実験を行い、そこから肥料登録などステップを踏みながら取組を進めたいと考えている。

(構成員)

資料4の下水汚泥の肥料化については、説明にあったとおり注目されている一方、懸念事項もあると聞いている。

よく聞く話として、成分が安定していないため使用できないと農業者から指摘される点があげられるが、成分の安定化について何か取組があるか伺う。

(事務局)

構成員からのご指摘があるよう、成分の安定化が一つの課題となっている。

資料4の2枚目、左上のリン回収技術について、今年度、国の応用研究の採択を得て、製造装置を製作しているが、来年1月には完成する予定となっている。

下水の成分は季節によって変動するため、この装置を用いて1年間のデータを取り、品質が安定するかどうか検証を進めていきたいと考えている。

(構成員)

肥料化については、農政部門とも協力しながら進めてもらいたいと考えている。

皆さんも御存知かと思うが、佐賀市においては市民がこぞって購入し、毎回完売していると聞いている。

地域の特性等が異なるので北九州市とは比べられない部分もあるかと思うが、佐賀市のように市民の方から喜んでもらえるような肥料づくりができるよう期待している。

雨水タンクについてはとてもよい取組だと思うが、資料によると6階の下水道計画課に展示しているとのことなので、役所の1階に展示してPRするのもよいのではないかとと思われる。

(事務局)

雨水タンクの展示について、区役所1階に置きたかったが、制約もしくはイベント等があり、下水道計画課内で展示することとなった。

今後、できるだけ皆さんの目に触れるような形で展示場所を考えていきたいと考えている。
出前公演や、エコライフステージなどのいろんなイベントでも、雨水タンクの実物、もしくはパネルを紹介したが、今後ともPRの方は頑張っていきたいと考えている。

(構成員)

下水道計画課は市民にとって馴染みの薄い部署だと思われるため、もっと市民の目に触れるところに展示する方が、より効果的だと思われる。

例えば雨が降りそうな時期のみという形で、期間限定で展示させてもらえないか担当部署と相談したり、また、市民の皆さんは雨水タンクの大きさを一番気にしていると思われるので、実物大のポスターを置くことなども含めて検討してもらいたい。

(構成員)

お酒とビールについては、きれいな水がないと製造できないと思われるため、北九州市の水道水のPRとして、ぜひ続けてもらいたいが、市制60周年の1回限りなのか、続ける予定があるのかについて伺う。

(事務局)

また何か機会あればやっていきたいとは考えているが、市制60周年の記念酒については、現状では継続して製造する予定はなく、1回限りのものとしている。

(構成員)

コストの面もあるが、収支にさほど影響しないのであれば、ぜひ継続してもらいたい。

また東京の方では、福岡市と比べ北九州市はPRが足りないと感じるため、アンテナショップで販売するなど、北九州市のPRにつながればよいと思っている。

東京では、一時期、東京都の水道水がお土産のベストテンに入っていたので、北九州市もPRに力を入れてもらいたい。

(事務局)

ビールについては、下水道資源を活用して育てたホップを使って製造している。

下水道資源の活用については今後も続けていく必要があるため、ビールについては来年度も続けていくよう検討している。

(構成員)

市制60周年の記念酒については、小倉城での試飲会に参加したが、口直しにボトルドウォーターが紙コップで準備されており、海外の方など多くの方に喜ばれていた。

その後、しろテラスで記念酒を購入したが、以前販売されていたボトルドウォーターについては、指定管理者が変わった関係で、取り扱われていなかった。

インバウンドも回復しているので、取り扱いを継続してはどうかと考えている。

また、ボトルドウォーターについて、物価高騰などの影響で、今後も一本100円という値段を維持できるかどうかについて伺う。

(事務局)

ボトルドウォーターについては、ご指摘のとおり、しろテラスでは現在販売していない状況となっている。

販売先については、頂いたご意見等も踏まえて、今後柔軟に考えていきたいと思っている。

また、ご指摘の通り、物価の高騰などがあり費用が非常に嵩んでいる側面もある。

そのため、ボトルドウォーターについては、今後どのようにやっていくのがよいのか、見直し・検討を進めている。

(構成員)

資料 4 の肥料化について、現在、このテーマの市場化について研究しているが、おそらく今実施している技術研究については、成功すると思われる。

しかしその先、肥料の市場化、販路開拓が課題になると懸念される。

日本中で一生懸命この分野についての取組が進められているが、技術研究が先行している傾向があるため、可能であれば技術研究だけでなく、搬送コストなどの点も留意し、最終的にどのように市場化を行って収益を高めていくのかという点についても、研究課題の一つに含めておくよう要望としてお伝えしておく。

資料 3 の日本水大賞グランプリ受賞について、これまでの北九州市の貢献・活動が認められた点で、非常に名誉ある受賞だったと感じている。

海外事業については、舞台が海外ではあるが、そこで得た知識や技術・経験の蓄積が北九州市の安全・安心な上下水道を守ることに貢献していると思う。

今回のような受賞を契機に、知識や技術・経験の蓄積の観点も踏まえ、KOWBA や北九州ウォーターサービスとも連携しながら、今後の展開を考えるよう要望しておく。

(事務局)

下水道資源の肥料化について、構成員から指摘があったように、販路を開拓するという出口戦略が、大変重要であると考えている。

そのため、JA 全農ふくれんや肥料会社からアンケートを取り、このような肥料が使えるかどうか、協議を続けている。

九州では、佐賀市が一番、熱心に取り組んでいる状況なので、どうすれば販路を開拓できるかも参考に、今後検討を進めていきたいと考えている。

(構成員)

肥料について、自治体の方から話を聞くと、自分たちのエリアの中での販路開拓だと手狭になることに限界を感じている様子だった。

農林水産省において、販路開拓について協力するという話も聞いているので、機会を捉えて働きかけるとよいと思う。

(構成員)

基本的なことだが、北九州市が日本水大賞のグランプリを受賞されたのは、他の都市とはどこが違うのかについて伺う。

(事務局)

自治体の中で、北九州市の海外での取組はトップランナーであり、例えばカンボジアであれば、長期専門家を20年近くずっと続けて派遣している。

そういった技術協力の取組が実を結んで、大賞の受賞につながったものと思っている。

(事務局)

大変熱心にご議論いただき、お礼申し上げます。

今回は主に令和4年度決算と令和5年度予算について、説明を行い意見をお伺いした。

物価高騰を受けての将来の経営についてや、収益的収支の悪化の状況、用地の活用、料金支払い方法の多様化、雨水タンク、下水汚泥の肥料化などについて様々なご意見をいただいたが、こういったご意見等も踏まえつつ、より一層の経営の健全化に努めていく必要があると感じている。

また、来年度からは令和8年度から12年度を計画期間とする次期中期計画の策定にも着手する予定としている。

市民生活を支える上下水道事業を安定的に運営していくために、中長期的な視点から、しっかりと計画の策定に取り組んで参りたいと考えており、来年度も引き続きご協力をいただくようお願いする。